

山形市南部児童遊戯施設は、 生きる力を育むインクルーシブな遊び場です。

2022年4月に開館する山形市南部児童遊戯施設は
すべての子どもたちがともに遊べる新しい拠点です。
蔵王連峰の山並みや雲を思わせる、曲線やかたちづ
くられたドーム型の建築には、わくわくする仕掛けが
たくさん。遊びを通じて子どもの豊かな発育を支え、
一人ひとりの多様なあり方を大切に育みます。

インクルーシブって、なに？

性別や年齢、人種・国籍の違い、障
がいの有無など、異なる背景や特性を
もつ人々が互いを認め合い、ともに生
きることを指します。

「ソーシャル・インクルージョン」(social inclusion
=社会的包摂)という考え方を背景にもつ、「す
べてを包み込む、包摂的な」という意味の言葉。

山形市南部児童遊戯施設が掲げる3つの柱

生きる力

好奇心や感性を大事にし、
自ら考える力を育てます

インクルーシブ

その人らしさを尊重し、
ともに遊び、学ぶ環境をつくります

地域共生

山形の自然と文化に触れながら、
地域みんなで交流の場を築きます



コンセプト

- 1 自然と遊びが生まれ、想像力が培われる場
- 2 「やってみよう!」の気持ちを応援する場
- 3 五感を大切にしたい、感性を育む場
- 4 未知の知と出会い、冒険心を養う場
- 5 多様性を認め合い、誰もが仲間になれる場

山形市南部児童遊戯施設では、地域企業や
大学、団体と協力しながら、多彩な活動を
企画しています。どうぞお楽しみに!

たとえば……

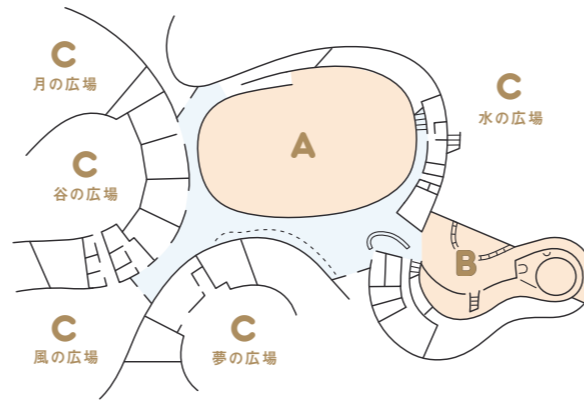
- 親子教室(味噌づくりや体操など)
- 赤ちゃんワークショップ
- 蕎麦打ち体験
- 工作・木工教室
- スタンブラリー
- こども緑日
- パラリンピック競技種目体験 ほか

ただいま開館準備中!

どんなことが
できるの？

地形を生かした開放的な空間が、
触れ合い・学び・チャレンジを生み出します!

屋外の丘やくぼ地の形状と調和した、のびやかで見通しのよい建築が特徴です。
段差やスロープまでもが遊びと憩いの場になり、子どもの自由な発想・交流を促します。



A 体育館

卓球やバドミントン、バスケットボールなどの
スポーツが楽しめるほか、自然木の大きな積み木
でダイナミックな造形遊びも。周囲のスロープや
大階段は観覧席にもなり、子どもの遊びや練習の
様子を安心して見守ることができます。



B 大型遊戯場

場内には大きな斜面があり、すべて遊んだり、ク
ライミングホールやロープで登ったりと、野山を
駆けまわるように体を動かすことができます。網を
張り巡らせたネット遊具、ボールプールなども併
設し、興味や能力に応じて幅広く遊べます。



C 広場

屋外には5つの広場があり、水遊びができる
水盤や、車椅子・二人乗り・多人数用など数種
類のブランコが並ぶエリア、音・手ざわりで楽し
める遊具のあるエリアなどが分布しています。エン
トランス付近では、休日にマルシェもオープン!

このほか、カフェや図書コーナー、図工室、
スノーズレン*など、ゆったりと過ごせるエリアも!

*光や音、匂いなどの感覚刺激を組み合わせたりラクゼーション空間

どうして
つくられるの？

「遊び場」って、まだまだ
ひらかれる可能性をもっているんです!

誰もが訪れ、楽しめる遊び場。しかし、なかには身近な公園などでの遊びに溶け込めない
子どもも。山形市南部児童遊戯施設は、「こんな場所があったらいいのに」に応えます。

山形市の保護者・学校、
支援団体、約350人に聞きました!

遊び場にまつわる みんなの声

いろんな人とコミュニケーション
をとり、たくさんの人とつな
がる楽しさ、人を思いや
る気持ちなどを学んで
ほしいと思います。
(4,6歳児の保護者)

SNSなどで、赤ちゃんでも
乗れる安全なブランコの
ある公園・施設を見ます。でも、
山形では見たことがありません。
(2歳児の保護者)

テレビやゲームばかりの生活なので、
自然に触れ合い、のびのびとたく
さんのことを学んでほしい。
(6,9,11歳児の保護者)

世代を越えて交
流する機会をつくり、
子どもたちの成長を見
守りたいです。
(市民グループ職員)

冒険するように、自分で判断
する要素がある遊具がほしい。
(小学校教員)

うちの子どもは障がいのある子、他
国籍の子と出会う機会がないので、
いろんな人が身近にいる
ことを知り、触れ合ってほしいです。
(9歳児の保護者)

子どもに身体障がいがあります。
すべり台を上るのに時間がかか
り、長い列をつくってしまうので、
いつも申し訳なくて遠慮
してしまいます。
(8歳児の保護者)

子どもの障がいについて、「どうし
て〇〇なの?」と、ほかの子たち
が聞いてくれたのは嬉しかった。もっと
話しかけてもらい、知ってもらいたいです。
(7歳児の保護者)

兄弟の年齢が7歳差。
遊ぶ場所が離れてい
ると、見守りがで
きません。
(3,10歳児の保護者)

山形市南部児童遊戯施設に
携わるみなさんに聞きました!

どんな遊び場を 目指しますか？

運営担当

子どもの「できた!」を
生み出していく



合同会社ヴォーチェ 佐藤奈々子

多様な人・体験に出会い、すべての子どもたちが
「生まれてきてよかった」と、生きる喜びを共有
できる空間をつくります。個々の特性を認め合
える、みんなの愛と笑顔にあふれたインクルーシ
ブな遊び場を、ここ山形から発信していきます!

遊び楽しみながら、
心とからだを育む



NPO法人生涯スポーツ振興会(アブルス)
須貝美奈子

ユニークな運営と環境づくりを心がけ、たく
さんの可能性を生み出す、わくわくドキドキがいっぱ
いの遊び場にしていきたいです。みんなで楽しく
過ごす時間が、子どもの豊かな成長につながる
よう応援していきたいですね。



館長

互いのあり方を
認め合い、交流する



色部正俊

さまざまな特性をもつ子どもたちが、仲間もち
ろん、幅広い世代と触れ合い、遊び、学んでいく。
それが、山形市南部児童遊戯施設が目指す姿
です。「また来たい!」と何度も足を運びたくな
るような拠点を築いていきます。



国内外の インクルーシブな 遊び場事情

欧米では1990年代以降、インクルーシブデザ
イン(=障がいの有無や年齢などを問わず、みんな
に合う意匠)を導入した公園が各地でコミュニ
ティの拠点になっています。日本でも、2020年
にオープンした東京・砧公園「みんなのひろば」
をはじめ、すべての子どもたちにひらかれた遊び
場づくりが広がりはじめています。

整備事業担当

地域の関わりを
促していく



株式会社夢の公園 株式会社シェルター 代表
木村仁大

家庭や学校、企業がつながり、みんなで地域の
未来を見据え交流できる場にしていきたいです。
互いに向き合い、一人ひとりの可能性を生かし
ていく土壌を築きながら、よりあたたかくひらか
れた社会を目指していきます。

設計担当

遊びを誘発する
環境をつくる



一級建築士事務所 o+h
大西麻貴・百田有希

「遊び」から場を考えると、そして誰もが参
加できることが、これからの遊び場をつくる上で
大事な要素になるのではないのでしょうか。常識
をとらえ直すところから、子どもの自由な遊びが
生まれていくのだと思います。